

第13回がん看護学分野講演会報告書

「患者・家族のエンパワーメントを支える看護～がん看護外来の活動を通して～」

共催：東北次世代がんプロ養成推進プラン

がん看護学分野では令和3年（2021年）3月4日、以下のプログラムを行った。

第13回である本講演会は、昨今のコロナ禍の状況を鑑み、オンライン形式（Zoom）で初めて開催された。オンライン形式が功を奏し、参加希望者は70名に上り、東北地方だけでなく関東・関西地方からの参加もあり、興味関心の高さがうかがえた。

講演内容は、がん看護専門看護師として熊谷先生が、がん看護外来で出会った患者・家族に対して、どのように関わり、そしてどのようにエンパワーメントを引き出すことができたかであった。エンパワーメント・アプローチである傾聴→対話→行動のプロセスを意識し、背景の異なる3つの事例を通して、各プロセスにおける患者・家族との関り方が具体的に提示され、参加者にとって非常に分かりやすく、理解の促進につながっていた。告知後の治療選択で、患者さんの発言「医療者にせかされていると感じる。」からも、とくに傾聴では、患者さんは自分自身の気持ちに対処するだけで大変であることをよく理解した上で関わる必要性があることを述べられていた。

質疑応答を20分間確保できたことから、患者・家族に最初に出会うとき心掛けていること、がん看護外来の頻度、提示された事例に対する質問、外来看護師—がん看護外来看護師間の情報共有方法、コロナ禍ゆえの苦労等、活発な意見交換が行われ、発表者および参加者で学びを共有できる場となった。

熊谷先生の穏やかな表情と話し方・雰囲気からも、患者・家族に寄り添うこと、対話を通して患者・家族のエンパワーメントを支える看護を垣間見ることができた貴重な講演会であった。

プログラム

・講演会

日時：令和3年3月4日（木）18:00–19:05

会場：Zoom

講師：宮城県立がんセンター

がん看護専門看護師 熊谷 香織 氏

演題：「患者・家族のエンパワーメントを支える看護」～がん看護外来の活動を通して～

参加者：大学職員、がん看護専門看護師、看護師、その他医療従事者、大学院生、学部学生

